

# イン・ビトウィーン

## In Between

2023年10月14日 [土] — 2024年1月28日 [日]

### ■ 展覧会概要

本展は近年当館の収蔵作家となった早瀬龍江（1905-1991）、ジョナス・メカス（1922-2019）、林芳史（1943-2001）に、ゲスト・アーティストとして潘逸舟（1987年生まれ）を加えた4名の作家に焦点を当て、作品や関連資料、関連作家の作品を交えながら紹介します。

日常と非日常、虚構と現実、過去と現在、国境、ジェンダーなど、世界には目に見える、あるいは目に見えない多くの境界があります。境界の存在は、向こう側を曇らせてしまうこともあれば、他方では自分の居場所を守るための拠りどころになることもあるでしょう。過去から現在まで、多くの作家がこうした境界の多様なあり方に着目し、作品を通してそれを浮かび上がらせようとしてきました。また、境界に立つ当事者としての自身のアイデンティティに向き合い、制作を続ける作家も少なくありません。本展はこのような視点から、日常的な営みを起点に、絵画、版画、ドローイング、映像などそれぞれのメディアを用いた試みを重ね、他者との境界やアイデンティティについて思索を深める各作家の足跡を紹介します。さまざまな境界線のあわいに立ち、往還する作家たちの眼差しと手探りは、現在に生きる私たちの視野を豊かに広げてくれることでしょう。

## ■ 本展の見どころ

### 1. 4名の作家を新たな視点から紹介

本展は、近年当館の収蔵作家となった早瀬龍江、ジョナス・メカス、林芳史に、ゲスト・アーティストとして潘逸舟を加えた4名に焦点を当て、4つの小個展が連なるように構成されます。早瀬、メカス、林については、当館のコレクションを起点に借用作品や資料、関連作家の作品も交えて、当館ならではの新たな視点からその作家像を検証します。

### 2. ゲスト・アーティストとして潘逸舟が参加

ゲスト・アーティストとして、東京を拠点に活動する作家・潘逸舟が参加します。潘は、個と社会、共同体との関係やアイデンティティをテーマに、自らの身体を用いたパフォーマンス、映像、インスタレーション、絵画などを様々なメディアを用いて表現しています。本展では、コロナ禍の中国・上海での隔離生活の経験を題材に、目に見えない境界について問いかける新作を展示します。

### 3. タイトル「イン・ビトウィーン」の由来

本展のタイトル「イン・ビトウィーン」(In Between) は、ジョナス・メカスの同題の映像作品から着想されています。本展では、飽くなき思索を続ける4名の出品作家を、境界の「狭間に立つ」者として捉え、今日的な視点を交えて、彼らの眼差しを探ります。

なお、本展では、近年も世界中で作品が上映されているジョナス・メカスの活動を、“旅”を軸に紹介。晩年の重要作「幸せな人生からの拾遺集」などの映像作品を会場で上映する他、関連イベントとして作品上映会も開催します。

## ■ 開催情報

展覧会名 | イン・ビトウィーン

会 期 | 2023年10月14日(土) ~ 2024年1月28日(日)

休 館 日 | 月曜日(1月8日は開館)、年末年始(12月25日-1月3日)

開館時間 | 10:00 ~ 17:30(展示室への入場は17:00まで)

観 覧 料 | 一般 1000円(800円) 大高生 800円(640円)

- ・( )内は20名以上の団体料金
- ・中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料です。
- ・企画展観覧券(ぐるっとパスを除く)をお持ちの方は、あわせてMOMASコレクション(1階展示室)もご覧いただけます。

主 催 | 埼玉県立近代美術館、さいたま国際芸術祭実行委員会

協 力 | RE:VOIR

広報協力 | JR東日本大宮支社、FM NACK5

## ■ 作家略歴（生年順、敬称略）

### 早瀬龍江（はやせ・たつえ／1905-1991）

北海道の奥尻島に生まれる。女子英学塾（現・津田塾大学）在学中に油彩を始め、福沢一郎の絵画研究所に通い、そこでシュルレアリスム絵画と出会う。ヒエロニムス・ボス風の幻想的な作品や、自身の容貌や食物、日用品等をモチーフにした作品を手がけ、美術文化協会などに発表する。1943年より夫・白木正一とともに現在の埼玉県飯能市に居住し、49年同地に白木美術研究所を設立。1958年白木と渡米し、89年までニューヨークに滞在、絵画や立体作品の制作を続けた。



早瀬龍江  
《願望》1953年  
埼玉県立近代美術館蔵

関連作家：福沢一郎、白木正一、真鍋（金子）英雄、片谷美香（愛子）、山下菊二、堀田操

### ジョナス・メカス（1922-2019）

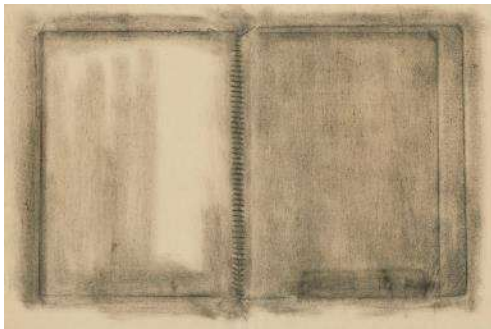
リトアニア、セメニシュケイに生まれる。第二次世界大戦下の1944年、ナチスの強制労働収容所に收容されるが脱走し、弟アドルフアスと難民キャンプを転々とする。1949年アメリカに亡命。16ミリフィルムカメラ「ボレックス」を手に入れ、日記を綴るように日常の光景を撮影し始める。雑誌『フィルム・カルチャー』の刊行や「アンソロジー・フィルム・アーカイヴズ」の設立などを通して、前衛映画作家たちの懸け橋となるべく奔走した。リトアニア語の詩人としても活動した。



ジョナス・メカス  
《ウーナ・メカス 5才 猫とホルス（母）の前でヴァイオリンの稽古 1979》1983年  
埼玉県立近代美術館蔵

## 林 芳史（はやし・よしふみ／1943-2001）

在日韓国人二世として大阪府に生まれる（後に日本国籍を取得）。早稲田大学在学中に哲学や現代思想への関心を深める。美術評論家として活動し、李禹煥や郭仁植、関根伸夫、鈴木慶則など同時代の作家たちの作品の評論に携わりながら、制作活動も行う。1970年代中頃、鉛筆やコンテの描線を版画に重ねた作品やフロッタージュなどドローイングや版画を中心に制作する。次第に東洋思想に傾倒し、1980年代以降は、墨と和紙を用いて、筆触や墨の滲みによって引き出される繊細で豊かなニュアンスを持った抽象画を手がけた。



林芳史

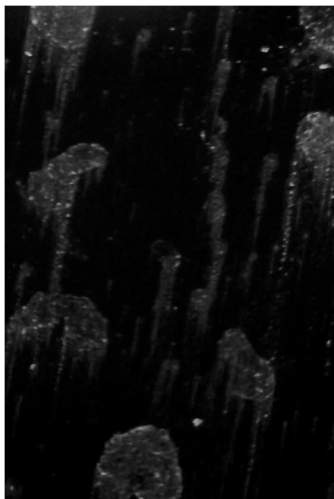
《習作》1975年頃

埼玉県立近代美術館蔵

関連作家：郭仁植、飯田昭二、鈴木慶則、李禹煥、伊丹潤、関根伸夫

## 潘 逸舟（はん・いしゅ／1987年生まれ）

中国、上海に生まれる。2012年東京藝術大学美術研究科先端芸術表現大学院修了。幼少期に上海から青森に移住した自身の経験をベースに、社会と個の関係の中で生じる疑問や戸惑いを、自らの身体を用いたパフォーマンス、映像、インスタレーションによって表現する。近年の展覧会に、「海、リビングルーム、頭蓋骨」（2021年、東京都現代美術館）、「国際芸術祭あいち 2022」（2022年、愛知県美術館）、「ホーム・スイート・ホーム」（2023年、国立国際美術館）など。



潘逸舟

《家を見つめる窓》2023年

作家蔵

## ■ 関連イベント

### アーティスト・トーク ※終了しました

潘逸舟（出品作家）×長島有里枝（アーティスト）

日時 | 10月14日（土）15:00～16:30（開場は14:30）

場所 | 2階講堂

定員 | 80名（申込不要、先着順）

参加費 | 無料

### ジョナス・メカス映像作品上映会&トーク

#### ① 第1回 ※終了しました

日時 | 11月12日（日）13:30～15:40（開場は13:00）

プログラム | 「いまだ失われざる楽園、あるいはウーナ3歳の年」「富士山への道すがら、私が見たものは…」(16mmフィルムによる上映)

配給 | メカス日本日記の会

#### ② 第2回

日時 | 12月24日（日）13:30～15:15（開場は13:00）

プログラム | 「アンディ・ウォーホルの授賞式」「楽園のこちら側」ほか（デジタル上映）

配給 | RE:VOIR、メカス日本日記の会

#### ③ ゲストによるトーク

ゲスト | 清原惟（映画監督・映像作家）×井戸沼紀美（「肌蹴る光線」主宰）

日時 | 12月24日（日）15:30～ [1時間程度]

#### ①～③共通：

場所 | 2階講堂

定員 | 60名（事前申込制、先着順、複数申込可）

参加費 | 無料

申込方法 | 当館ホームページからお申し込みください

受付開始日 | 10月3日（火）

\* プログラムの詳細は当館ホームページをご覧ください

### ワークショップ「見つめる窓」 ※申込受付は終了しました

講師 | 潘逸舟（出品作家）

日時 | 12月3日（日）、12月10日（日）各13:30～15:30

\* 2日間のワークショップです

定員 | 10名（事前申込制、応募者多数の場合は抽選）

対象 | 小学校中学年以上（2日間参加できる方）

申込方法 | 当館ホームページからお申し込みください

申込期間 | 11月1日(水)～11月17日(金)  
内容 | 展覧会を鑑賞し、自分だけの窓を作ります  
\* 企画展観覧料が必要です

## 担当学芸員によるギャラリートーク

日時 | 1月13日(土) 15:00～ [30分程度]  
場所 | 2階企画展示室  
\* 企画展観覧料が必要です

## ■ スライド・トーク

ご希望のグループにスライドを使って 展覧会の見どころをご案内します(予約制)。  
お問い合わせ、ご予約は教育・広報担当(問い合わせ先: 048-824-0110)まで。

## ■ 同時開催

### ■ MOMASコレクション (1階展示室)

9月2日(土)～11月26日(日)  
「セレクション」「特集: 須田剋太」  
12月2日(土)～2024年2月25日(日)  
「セレクション」「魅惑のリアリズム」

### ■ アーティスト・プロジェクト#2.07 永井天陽「遠回りの近景」

(2階展示室Dほか館内各所)  
10月14日(土)～2024年1月28日(日)

## ■ 会場案内

埼玉県立近代美術館

〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 9-30-1 <https://pref.spec.ed.jp/momas/>

Tel: 048-824-0111 FAX: 048-824-0119 E-mail: p240111@pref.saitama.lg.jp

- ・ JR京浜東北線北浦和駅西口から徒歩3分(北浦和公園内)。JR東京駅、新宿駅から北浦和駅までそれぞれ約35分。
- ・ 当館に専用駐車場はありませんが、団体バスは事前にご相談ください。
- ・ お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので事前にご連絡をお願いします。
- ・ 状況により休館および会期変更の可能性があります。ご来館前に当館ウェブサイトで最新情報をご確認ください。

## ■ プレスカンファレンス

2023年10月14日（土）午後5時30分～（受付開始：午後5時15分）

埼玉県立近代美術館 2階企画展示室

上記の日程で、「アーティスト・プロジェクト#2.07 永井天陽」と併せてプレスカンファレンスを開催いたします。担当学芸員と出品作家（潘逸舟）によるギャラリートークを行います。参加ご希望の方は、[p2401115@pref.saitama.lg.jp](mailto:p2401115@pref.saitama.lg.jp)（担当・菊地）までメールでお申し込みください。その際、貴社名、お名前、参加人数、テレビカメラの有無をお知らせください。

## ■ お問い合わせ

画像のご提供については、当館にお問い合わせください。当館から画像をデータにてご提供いたします。ご請求は [p2401115@pref.saitama.lg.jp](mailto:p2401115@pref.saitama.lg.jp)（担当・菊地）まで、メールでお願いいたします。

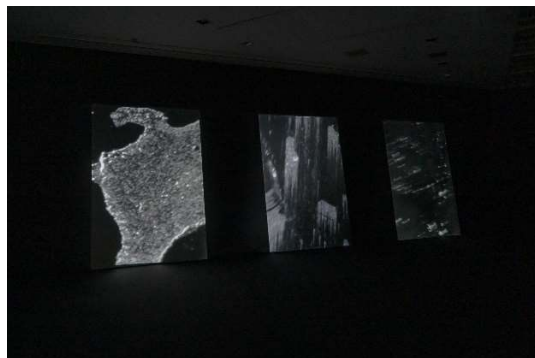
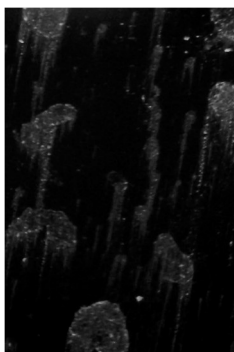
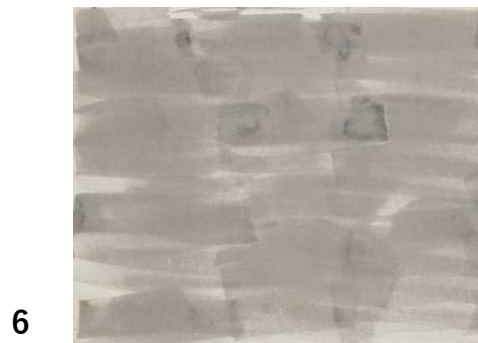
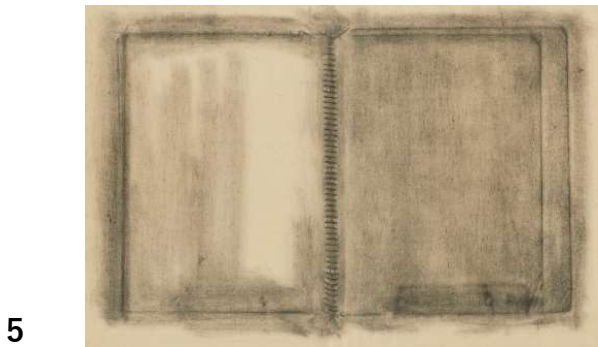
### 画像キャプション、クレジット

1. 早瀬龍江《戯れ》1952年、富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館蔵
2. 早瀬龍江《願望》1953年、埼玉県立近代美術館蔵
3. ジョナス・メカス《ウーナ・メカス 5才 猫とホルス（母）の前でヴァイオリンの稽古 1979》1983年、埼玉県立近代美術館蔵
4. ジョナス・メカス「幸せな人生からの拾遺集」より、2012年  
©Jonas Mekas, courtesy of Re:Voir
5. 林芳史《習作》1975年頃、埼玉県立近代美術館蔵
6. 林芳史《Work》1980年頃、埼玉県立近代美術館蔵
7. 潘逸舟《家を見つめる窓》2023年、作家蔵
8. 潘逸舟《家を見つめる窓》2023年、作家蔵 展示風景（撮影：加藤健）
9. 潘逸舟《波を掃除する人》2019年、作家蔵

- ・画像を掲載する場合は、作品のキャプションを明記してください。
- ・作品画像のトリミング、文字載せはご遠慮ください。
- ・展示風景の写真のご提供も可能です。詳しくはお問い合わせください。



広報用画像一覧



7

8

9